

SVC063-P08

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

## GPSで捉えられた口永良部島火山の山体変動 -滑り落ちた新岳-

### Ground deformation of Kuchinoerabujima volcano detected by GPS. - Slipping down of Shindake -

齋藤 英二<sup>1\*</sup>, 井口 正人<sup>2</sup>

Eiji Saito<sup>1\*</sup>, Masato Iguchi<sup>2</sup>

<sup>1</sup>産業技術総合研究所地質調査総合センター, <sup>2</sup>京大防災研火山活動研究センター

<sup>1</sup>Geological Survey of Japan, AIST, <sup>2</sup>Sakurajima Volcano Research Center, DPRI

口永良部島の新岳山頂部では、2004年以降に3回の膨張変動があったことが、火口から250mの場所での連続的なGPS観測によりわかっている。この変動は、膨張期間のみで生じ、変位が累積する特徴がある。

2006年に連続観測点が複数追加され、変動の広がりが把握できるようになった。その結果、変動の中心は火口周辺だが、影響はその外側まで広がっていることがわかった。また、2006年に追加された観測点には、膨張の影響以外の微小で連続的な変動が含まれていた。この微小変動を説明する変動源として、新岳から古岳に至る稜線直下に西側にすべる断層が想定された。山頂火口周辺での繰り返しGPS測量結果（京大防災研、2009）を参考にすると、断層は2006年の膨張時に動き出した可能性がある。断層面は現在の地形を作っている山体の構造と関係があるように見える。

キーワード:火山,地盤変動, GPS,膨張,口永良部島,断層

Keywords: Volcano, Ground deformation, GPS, Inflation, Kuchinoerabujima, Fault